

# 在 自

この題字は弘法大師24歳のご親作でご親筆である<sup>ロウコシキ</sup>聾瞽指帰より複製させて頂いたもので、原本は高野山金剛峯寺に収蔵されています。

2024年

こども作品展  
特集号

No. 47



第47回 自在園こども作品展 特賞

おばあちゃんとやさいのしゅうかく

橋本 樹 来 (平城小学校2年)

## つながることの大切さ

愛南町・篠山小中学校組合教育委員会

教育長 中尾茂樹

昨年、新型コロナウイルス感染症が5類感染症となり、学校では多くの学校行事が以前と同様になり、明るく元気な子供たちの声が、校舎全体に響き渡るようになりました。また、対外的行事も、全ての活動が制限なく執り行われています。ただ、新型コロナウイルス感染症がなくなったわけではなく、今もなお町内の園児や小中学生が自在園の入所者の皆さんと、実際に会っての交流ができないことが続いていることが残念でなりません。

高齢者と子供のふれあいやつながりは、個々の成長だけでなく、地域社会全体の絆と活力を育むためにも、大変重要なことです。子供は、豊かな経験、知識、技能を有する高齢者から様々な生きた知識や人間の生き方を学ぶことで、広い視野を持つことができできます。特に、地域における伝統行事などの伝承は、地域文化の継承としても大切です。そして、高齢者への感謝や尊敬の気持ちとともに高齢者を思いやる気持ちやいたわる気持ちを育むことができます。一方、高齢者は、子供から新しい視点や元気をもらったり、子供たちへ教えることで心の充足や生き

がいを得たりすることができ、日々の生活に活力をもたらすのではないのでしょうか。何よりこの交流を通して、お互いに対する理解と共感が深まり、より調和のとれたコミュニティが形成されます。

一緒に話をしたり、遊んだりする園児や小学生との交流、福祉体験学習や職場体験学習等の学びを通じた中学生や高校生との交流ができるようになることを望んでいます。教育委員会としても、皆様とのふれあいを継続していきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、「第47回自在園こども作品展」には、今年も各学校から多くの絵画、作文が出品されました。どの作品からも、高齢者の方々との温かな関わりの中で貴重な経験を積み、そこで感じた気持ちを素直に表現しており、絵画を鑑賞する人、作文を読む人に感動を与えてくれるものとなっています。絵画作品については、御荘文化センター1階のエントランスに展示をします。また、作文については、今年度も愛媛CATVでの放送が決まっています。是非多くの方々に鑑賞していただきたいと思っています。

最後に、特別養護老人ホーム自在園の益々のご発展と、入所されている皆様や関係職員の方々のご健勝とご活躍を祈念するとともに、これからの未来を担う子供たちが、複雑化する社会的背景による変化に負けず、心豊かにたくましく成長していくことを心より願っております。

# 第四十七回 こども作品展

## 開催の目的

一、こどもたちの澄んだ目を通して地域の人々のもつ高齢者イメージの実態を把握し、コミュニケーションとして高齢者福祉に対する意識の啓蒙をはかる。  
二、地域社会と老人ホームとの交流を深める。

## 主催

社会福祉法人御荘福祉施設協会  
特別養護老人ホーム 自在園  
ユニット型特別養護老人ホーム 自在園  
並びに、自在園家族会

## 協力

愛南町教育委員会  
郡内小学校（九校）

## 絵画の部

### ◎審査員

石田 佳菜子 先生（平城小学校教諭）  
前田 千穂 先生（御荘中学校教諭）

### ◎応募点数

総数45点

### ◎入賞者

特賞 橋本 樹来（平城小学校二年）  
金賞 竹田 理璃菜（城辺小学校一年）  
中川 夏綺（城辺小学校六年）  
銀賞 岡村 麻奈美（平城小学校二年）  
吉田 匠海（船越小学校二年）  
菅原 凜（福浦小学校二年）  
銅賞 石川 華（柏小学校二年）  
安部 壮一郎（平城小学校二年）  
濱岡 羽良（平城小学校二年）  
佳作 大西 ぞら（城辺小学校四年）  
井村 百花（一本松小学校四年）  
高橋 涼介（柏小学校二年）

## 作文の部

### ◎審査員

西村 愛 先生（緑小学校教諭）  
山本 直也 先生（平城小学校教諭）  
大西 由美 先生（篠山中学校教諭）

### ◎応募点数

総数18点

### ◎入賞者

特賞 野田 彩月（平城小学校六年）  
金賞 清水 すみれ（一本松小学校六年）  
銀賞 奥野 陽介（平城小学校四年）  
石川 華（柏小学校二年）  
銅賞 猪崎 波留（福浦小学校五年）  
河野 虹史朗（柏小学校五年）  
宮本 聖之（一本松小学校二年）  
佳作 桑山 萌華（家申小学校六年）  
吉見 仁汰（城辺小学校四年）  
高田 歩夢（城辺小学校三年）





おさんぽうれしい

城辺小一年 竹田 理璃菜

絵画の部 入賞作品  
— 特賞は表紙掲載 —

金賞



おばあちゃんと草ひき

城辺小六年 中川 夏綺



銀  
賞



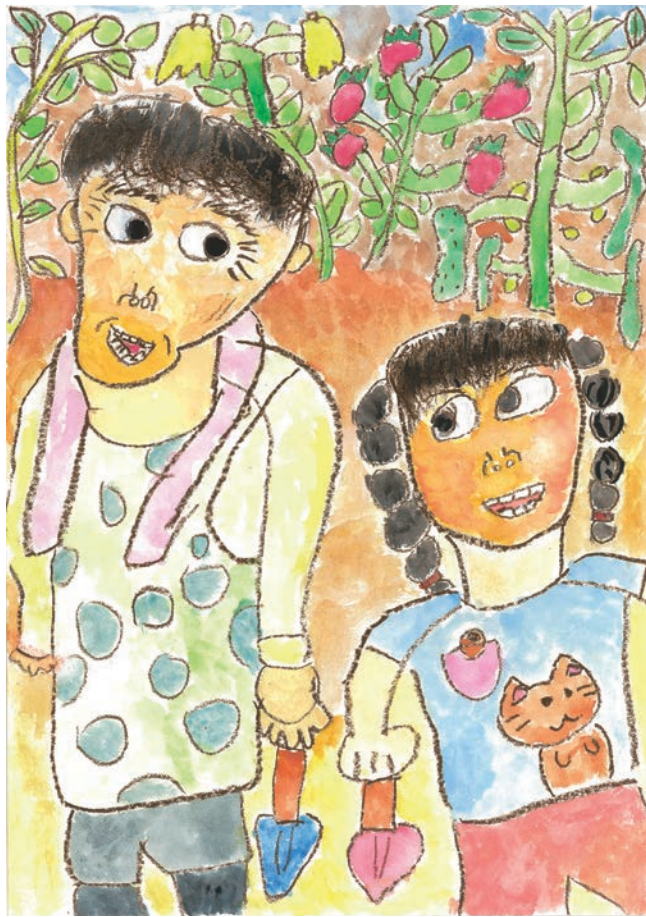
おじいちゃん、おばあちゃんといっしょにお花畑

平城小二年 岡村 麻奈美



おじいちゃんとぼくたち五人

船越小二年 吉田 匠海

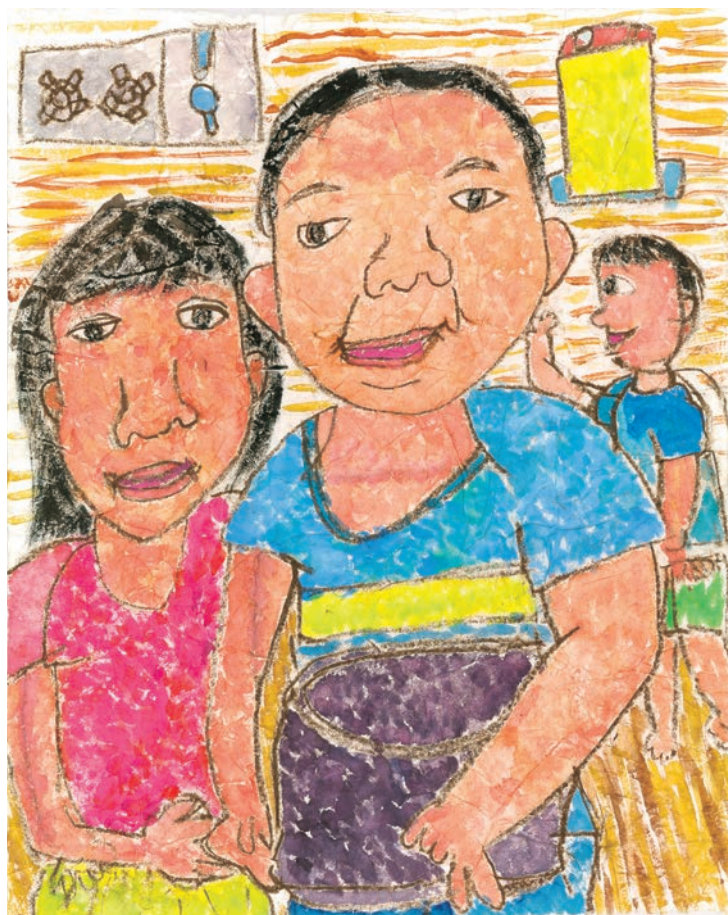


やちさんと わたし  
福浦小二年 菅原 凜





銅賞



じいちゃん、いっしょにごはん作ろう！

柏小二年 石川 華



みんなで四国水ぞくかん

平城小二年 安部 壮一郎





ばあばといっしょに弟をだっこしたよ

平城小二年 濱岡羽良



祭りのおじいちゃん

城辺小四年 大西そら

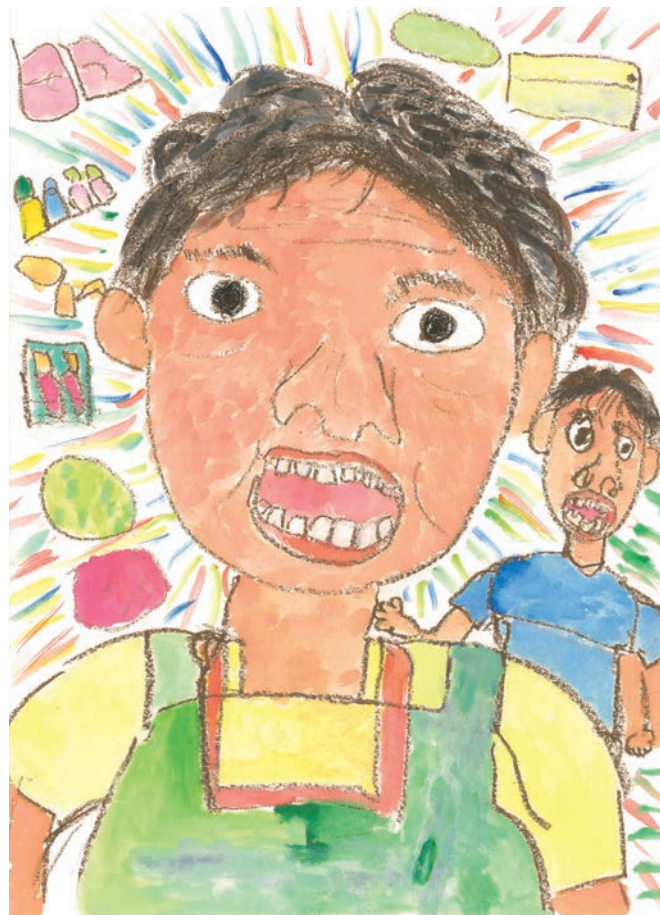






「茶つみ」を歌ってくれたおばあちゃん

一本松小四年 井村百花



ごはんつくるおばあちゃん、かたたたいたらびっくり!

柏小二年 高橋涼介

二  
作文の部 入賞作品  
二

特賞

## おばあちゃんたちから学んだこと

平城小学校六年 野田 彩 月

毎朝、地域の見守り隊のおばあちゃんたちが交差点に立ってあいさつをしてくれます。

おばあちゃんたちが、

「おはようさーん。」

と言うと登校班のみんなが、一年生から順に「あさばあ、じょうばあ、おはようさーん。」と言います。あいさつをするとおばあちゃんたちが、ニコニコしています。私たちもニコニコになり、明るい気持ちになります。私たちが一年生の時から、ずっと見守ってくれているおばあちゃんたちです。

私のおじいちゃんは、福岡に住んでいます。お

じいちゃんは朝起きが苦手なので、下校時の見守り隊のメンバーです。そこは大きな交差点でおじいちゃんは「こんにちは」や「おかえり」などのあいさつをしながら見守っています。おじいちゃんは、子どもたちから大きな声であいさつをしてくれたり、ハイタッチしてくれたりするのがとてもうれしいと話していました。

わたしたちの地域の見守り隊のおばあちゃんたちは、地域の集会所を借りてモーニングをしています。おばあちゃんたちが手作りのパンや野菜を持ち寄り、それをお皿に盛ってわたしたちがいただきます。地域の人たちの交流の場になっていて、いろんな人と話をします。おへん路さんが通るかかって提供することもあります。私は今年から、受付のボランティアをするようになりました。みんなが笑顔で帰って行くので、私もそこのおばあちゃんも笑顔になります。

私がボランティアをしようと思ったのは、「トレッキング・ザ・空海あいなん」に参加したことがきっかけです。へん路道では、その地域の方々が接客をしてくれました。お芋やじゃこ天やみかんなど、いろいろな食べ物を準備してくれて、

「お疲れさま。ゆっくり休んで。」

とうれしい言葉もかけてくれました。なんでこんなに、温かく迎えてくれるのだろうと聞いてみると、お接待について教えてくれました。お接待とは何の見返りも期待せず、通りがかりのおへん路さんに親切にすることだそうです。四国ではこのような文化が昔からあったのだとおばあちゃんが教えてくれました。それで、私もやってみたいと思います、モーニングの受付ボランティアをするようになりました。

私は、地域のおばあちゃんたちと共に行う活動が大好きです。いっしょにしていると多くのことを教えてもらったり、心が温かくなったりします。おばあちゃんたちのやっている活動は、私たちだけでなく、地域や社会を明るくしていると思います。これからも、積極的に活動に参加して、おばあちゃんたちからたくさんのお話を学びたいです。私も、おばあちゃんたちのように、人に優しく親切にしていきたいです。



金賞

## 決して当たり前ではないこと

一本松小学校六年 清水 すみれ

私のおじいちゃんとおばあちゃんは、とても仲が良い。その秘けつは、お互いのことをほめ合うことだと言っていた。そうすることで、お互いがうれしくなり、ずっと仲良くいられるのだ。

おじいちゃんは、糖尿病という病気にかかっている。この病気は、血糖値が異常に高くなってしまふ病気だ。そのままにしておくと、合併症を引き起こしてしまうことがある。食べ過ぎに気を付けたり、バランスのよい物を食べたりしないといけない。だから、おばあちゃんが考えながらおじいちゃんの食べたい物を作ってあげている。少し手を加えて、アレンジをしてみることもあるそう。長い休みに遊びに行った時には、いっしょにアレンジを考えてみた。おじいちゃんのことを考えながら作ると楽しかった。

さらに、毎日運動をする必要がある。毎日欠かさず、約五千歩歩いているそうだ。私も、おじい

ちゃんのところに行くときには、いっしょに歩くこともある。その時には、おじいちゃんとおばあちゃんが住んでいる町の良さや、最近の出来事などを話す。たくさんある自然の中を、そういった話をしながら歩くと、とても楽しい。

そんな中、おばあちゃんが目の手術で一週間入院することがあった。その間、おじいちゃんは、家で一人だ。私とお母さんは、心配して、おじいちゃんのところへ行った。おじいちゃんはとてもうれしそうだった。話を聞いていると、毎日おばあちゃんと電話をしているそうだ。おじいちゃんがうれしそうにおばあちゃんのことを話している、聞いている私までうれしくなった。おばあちゃんは、一週間分のごはんを作り置きしていた。少しずつ、いろいろな種類のおかずを作っていた。そして、何日に何を食えるというスケジュール表で、メモに書いてあげていた。これは、おじいちゃんを想う、おばあちゃんの優しさだ。おばあちゃんが退院する日、私たち家族と、おじいちゃんはいっしょにおばあちゃんを迎えに行った。おばあちゃんは、久しぶりにみんなに会えてうれしそうだった。その顔を見て、私もとてもうれしくなった。おじいちゃんは笑顔で、

「退院おめでとう。」

と言った。おばあちゃんもうれしそうに、「ありがとう。」

と返した。その二人の姿を見て、私は心が温まった。

二人は、お互いのことを思いやるとも仲が良い夫婦だ。だから、元気でいつも楽しそうだ。二人は、私ができることがあると、いっしょに喜んでくれて、たくさんほめてくれる。そうやって二人が私のそばにいてくれることは決して当たり前なことではない。おじいちゃん、おばあちゃん、元気でいてくれて、そばにいてくれて、ありがとう。



入居者様の趣味の作品

## 銀賞

## 自まんのおじいちゃんとおばあちゃん

平城小学校四年 奥野陽介

ぼくのおじいちゃんとおばあちゃんは、とても元気です。いつも笑顔で、二人でいろいろな所に旅行に行っています。今度、ぼくたち家族と、石づち山に登る計画も立てています。ぼくは、どうして二人が元気なのかを考えてみました。

二人が元気な理由は、よく動くことだと思います。おじいちゃんには、しゅ味がたくさんあります。まず一つ目は、テニスです。練習するだけではなく、シニアの大会にもよく出ています。おじいちゃんがゆう勝すると、ぼくの家に電話がかかってきて、ゆう勝商品でお祝いします。もしようがきやヒオウギ、いせえびも食べたことがあります。おじいちゃんのおかげで、おいしいものが食べられて幸せだなと思います。

二つ目は、自転車です。去年のたん生日に、深うらから高もみさきまで、サイクリングに行きました。また、友達としまなみ海道のサイクリング

にも行ったこともあるそうです。おじいちゃんが自転車をこぐスピードはとても速いです。もう少し大きくなったら、ぼくもいっしょにサイクリングに連れて行ってけると約束しています。今からとても楽しみです。

三つ目は、本を読むことです。おじいちゃんは、公民館や図書館に行つて、本を借りて読んでいます。おじいちゃんの家は二階は、本だらけです。おじいちゃんは、何でも知っています。ぼくは、本が苦手だから、おじいちゃんのように本をたくさん読んで、物知りになりたいです。

おばあちゃんは、とても器用で、料理が上手です。ぼくが、小さいころには服をぬったり、セーターをあんだけりしてくれました。おばあちゃんが作ってくれた服は、ぼくのお気に入りのぬいぐるみが着ています。また、ぼくはおばあちゃんが作るからあげが大好きです。おばあちゃんが作るものは何でもおいしいです。おばあちゃんは、宿題で分からないところがあると教えてくれます。おばあちゃんは昔、理科の先生をしていたことがあ

るそうで、教え方がとても上手です。ぼくの理科好きは、おばあちゃんにたのかもしれない。おばあちゃんとおじいちゃんは、とても仲が良

いです。これも元気のひけつだなと思います。ぼくの運動会も陸上大会も見に来て、「陽介、がんばれ。」

と大きい声でおうえんしてくれます。ぼくには、この言葉がまほうの言葉のように聞こえます。おじいちゃんとおばあちゃんの気持ちがぼくの全身に伝わって、大きな力になって、ぼくはがんばれるのです。ぼくの自まんのおじいちゃん、おばあちゃん、いつまでも長生きしてね。そして、ずっとぼくのおうえん団でいてください。



入居者様の趣味の作品



銀賞

### 「ありがとう」をつたえたい

柏小学校三年 石川 華

「はな、来たぞう。」

とおむかえに来てくれました。今も、わたしが学校へ行く時、しゅうごうばしょまでついて来てくれます。わたしは、毎日おじいちゃんと歩く時間が楽しみです。やさしいおじいちゃん、大好きだよ。

わたしは、「ありがとう」とつたえたい人が二人います。一人はわたしのおばあちゃんです。おばあちゃんは、三年前に天国に行きました。わたしがほいくえんから帰ると、いつもおやつをじゅんびしてくれていました。どんなおやつがいいか、私のお母さんに毎日聞いてくれていたそうです。おばあちゃんといると、いつも楽しかったし、とてもやさしい気もちになりました。おばあちゃんに「ありがとう」と言いたいけれど、もうつたえることができません。空から見ているおばあちゃんが、あん心してよろこんでくれるように、おじいちゃん、お父さん、お母さん、弟、わたし、家ぞくみんなが、え顔でなかよく生きていきたいです。それが、おばあちゃんへの「ありがとう」の気もちです。

もう一人は、おじいちゃんです。おじいちゃんは、わたしがほいくえんのときいつも、

おじいちゃんは、やさしいが入っているごはんがきらいです。とくに、にんじんとピーマンがなくて、たきこみごはんのにんじんをきれいにのけます。子どもみたいです。「おじいちゃんは、にんじんをのける名人じゃあ。」と言って、のこしたにんじんを、けんこうのためにと行って、わたしと弟に食べさせます。けんこうにいいなら、おじいちゃんも、一こは食べてもらいたいです。

これからも、やさしいおじいちゃんとたくさんあそんだり、お話ししたりしたいです。おじいちゃん、いつもありがとう。大すぎだよ。長生きして、ずっといっしょにいてください。



入居者様の趣味の作品



入居者様の趣味の作品

## 銅賞

## 大好きなおじいちゃん、おばあちゃん

福浦小学校五年 猪崎波留

ぼくのおじいちゃん、おばあちゃんは、元気です。おじいちゃんが九十歳でおばあちゃんが八十五歳です。二人とも、ぼくは大好きです。

おばあちゃんは、いつも朝四時くらいに起きて、ポストを確認したり、ごみを出したりします。朝から元気です。おばあちゃんは、休みの日、ぼくが宿題をしていたら、「えらいねえ。」と言ってくれて、とてもうれしいです。おばあちゃんは、夏休みなどの長い休みの日には、お菓子を買って来てくれたり、ホットケーキを作ってくれたりします。破れた服やくつ下をぬってくれたり、服を洗濯してくれたりもするので、とても助かっています。ぼくが迷惑をかける時もあるけれど、いつもいつも、「大丈夫。」と言ってくれます。ぼくは、「本当に大丈夫なのかな。」と心配するときもあるけれど、とてもありがたいです。

おじいちゃんは、もう九十歳なのに、ぼくと釣

りに行きたいと言っていて、おじいちゃんもすごく元気です。この前、おじいちゃんとお父さんと一緒に船の掃除をしました。おじいちゃんとお父さんは、かきがらを削り取って、ぼくはそのかきがらをほうきで集めて捨てる作業をしました。おじいちゃんから、「波留、がんばってえらいな。」と言ってもらえて、とてもうれしかったです。それに、おじいちゃんは、もう九十歳なのに、歯が一本も入れ歯じゃなくて、自分自身の歯なので、ごいと思います。

そんな元気なおじいちゃんですが、二年前くらいに、食道に穴が開いて、手術をしたことがありました。おばあちゃんも、おじいちゃんが入院した時には、毎晩、大丈夫だろうかとても心配していました。すぐに元気になって帰ってきました。帰って来た時には、車いすでしか移動できなかったけど、家の中でできるリハビリをして、一年後くらいには、すっかり車いすなしで歩けるようになっていました。ぼくはその時、「大変そうだな」とだけしか思っていなかったけれど、今思えば、ほぼ歩けないところから、たったの一年で歩けるようになったおじいちゃんはすごいです。しかも、今では一人で家中歩き回れるようになり、

とてもたくましいと思います。ぼくが転んでしまったら、「歩けない」と言ってしまうけど、おじいちゃんは、病気になって手術をしても、絶対、「歩けない。」とは、言いませんでした。ぼくは、おじいちゃんのようにたくましく、何にでも耐えられる人間になりたいです。おじいちゃんとおばあちゃんは、どちらも戦争を体験したそうです。おじいちゃんが十一歳、おばあちゃんが六歳の時だそうです。二人とも戦争から生き延びているとてもたくましい存在です。

これからは、おじいちゃん、おばあちゃんに迷惑をかけないように、ぼくがいっぱい手伝ってあげて、暮らしていきたいです。おじいちゃんにもおばあちゃんにも長生きしてほしいです。



入居者様の趣味の作品



銅賞

いつも応えんありがとう

柏小学校五年 河野 虹史朗

ぼくのひいおばあちゃんとおじいちゃんとおばあちゃんのことを紹介します。まずひいおばあちゃんです。ひいおばあちゃんはいつも、ぼくの家の一階の部屋でくらししていたので、お部屋のおばあちゃんと呼ばれていました。ぼくはいつも、夕ご飯などを部屋まで運んでいました。お母さんやおばあちゃんに怒られたときには、その部屋に行行って、なぐさめてもらっていました。そんなひいおばあちゃんとの一番の思い出は、部屋に行つてご飯をたいてもらったことです。ひいおばあちゃんと一緒に食べるご飯は、とてもおいしかったです。しかし、ひいおばあちゃんは、ぼくが小学三年生のとき、なくなっていました。野球の練習に行つてるときでした。おじいちゃんたちが病院にかけつけましたが、ひいおばあちゃんは一人で天国へ旅立ったそうです。おばあちゃんから、

「ひいおばあちゃんは、面会に行く度に、虹史朗に会いたいわって言いよったよ。」

と聞きました。なみだが止まりませんでした。「もつと長く一緒にいたかったな」と思いました。

次は、おじいちゃんとおばあちゃんの紹介です。

二人はいつも、農作業をしていたり、にわたりの世話をしたりしています。ぼくが犬の散歩に行けないときには、代わりに散歩に行ってくれたり、ぼくの野球の応えんをしてくれたりして、とてもやさしいです。お母さんが仕事で忙しいときには、野球の試合や練習に連れて行ってくれるし、送り迎えがなくても応えんに来てくれることもあります。その他にも、消防署に連れて行ってくれて、消防自動車を見せてくれたこともありました。ぼくには、いとこがたくさんいますが、おじいちゃんとおばあちゃんは、みんなの人気者です。そんな二人との一番の思い出は、ぼくが三才くらいのころに、一緒にミニカーのてん示会に行ったことです。大好きなミニカーをたくさん見ることができて喜んだことを覚えています。今でも、野球やいろいろなことでお世話になっているので、改めて「ありがとう、これからもよろしくね」と伝えたいです。

三人のことを思いうかべて、ぼくが、がんばりたいと思ったことが二つあります。一つ目は、野球です。ひいおばあちゃんは野球がとても大好きで、テレビでよく観戦していました。おじいちゃんとおばあちゃんも、忙しい中、野球の応えんをしてくれます。その感謝の気持ちをこめて、大活やくしている姿を見てもらいたいです。二つ目は農作業です。いつもおじいちゃんやおばあちゃんがしているけれど、農作業を手伝いたいです。そして、ぼくが育てた野菜を、二人に食べてもらいたいです。おじいちゃん、おばあちゃん、これからも応えんよろしくね。農業も手伝うから、ぼくが育てた野菜をたくさん食べて長生きしてね。



入居者様の趣味の作品

銅賞

## ぼくのおじいちゃん

一本松小学校二年 宮本聖之

ぼくのおじいちゃんは、ブドウをつくる名人です。

おじいちゃんは、朝早くに、ブドウをみどりしんせん市、フレッシュ一本まつにとどけています。はこびおわつてかえつてくると、少し体を休めます。そのあとは、ブドウをとりにはうすに行きます。はうすの中はすぐくあついで、ブドウをとつてかえつてきたおじいちゃんはあせだくになっています。いろやかたちが少しづつちがつているので、名前をきいてみると、

「アキクイーン、ブラックオリンピア、マスカットの三しゆるいだよ。」

と、教えてくれました。見分けることやむずかしい名前をスラスラ言えることがかっこいいなと思います。

おじいちゃんは、はうすからとつてきたブドウをはかりではかりながら、パックに入れていきま

す。一つ一つ手でいねいにしなくちやいけないので、とても大へんそうです。ぼくも時々、ねふだはりを手つだいます。ぼくが手つだうとおじいちゃんはとてもよろこんでくれます。パックをキャリアに入れてそれをはこぶ手つだいもしたことがあります。パックを十こ入れたキャリアをお兄ちゃんとはこんだら、とてもおもくて、手がいたくなりました。おじいちゃんは、そのキャリアを何こもはこぶのです。どこからそんな力が出てくるのかふしぎです。ぼくも、いつかおじいちゃんみたいに力もちになりたいです。

おじいちゃんのブドウは、あまくてとてもおいしいです。おいしいので、たくさんの人が買ってくれています。とくに人気のブドウは「アキクイーン」だそうです。ぼくは、マスカットがすきです。これからおじいちゃんのおいしいブドウづくりのお手つだいをしたいと思います。



入居者様の趣味の作品



佳作

## あこがれの祖父と祖母

家申小学校六年 桑 山 萌 華

私の祖父と祖母は、私の家のすぐとなりに住んでいます。私にとって、とても大切な人です。私もこんなふうになれたらいいなと思うあこがれの存在です。

祖父は、とても器用です。夏休みにいとこが帰って来ていた時に、ちょう刻の宿題をしていました。その時、祖父が木のけずり方を教えていました。ただの木だったものが、どんどんと鳥の形になっていきます。あまりにも上手なので、感心して見入ってしまいました。私は、版画で木をけずったり、細かい作業をしたりするのが苦手なので、教えてもらいたいなと思いました。今度、時間のある時に教えてもらおうと思います。また、魚をさばくのも上手です。近所でもらってきた魚は、全部祖父がさばきます。さし身にしたり、小さいものはに物にしたりします。祖父がさばいている時にそばにいたら、私と飼いねこはつまみ食いをして

ます。このつまみ食いがたまらなくおいしいのです。おいしい魚が食べられるのは、祖父のおかげです。祖父のように魚がさばけるようになることが、私の目標の一つでもあります。せっかく海の近くにすんでいるし、近くに魚をさばく名人がいるので、しっかり教えてもらおうと思います。

次は、祖母です。祖母は、裁ほうと料理が得意です。私はものを作ることに興味があり、三年生の時、裁ほうに興味を持っていました。きんちゃくぶくろを作ろうとしたのですが、うまくできませんでした。そこで、祖母に教えてもらうことにしました。ぬい方やぬい合わせの仕方などを丁寧に教えてくれました。完成した時は、とてもうれしかったことを覚えていきます。この前、家庭科でふくろをぬった時も、スムーズに作る事ができ、友達にも教えてあげました。楽しいなと思っています。また、祖母と一緒に作りたいなと思っています。そして、私が作ったものを祖母にプレゼントできたらいいなと思います。料理は、何でもおいしいです。その中でも、私のお気に入り、ひじきのあげ物です。作った時には、私の家まで持って来てくれます。祖母の揚げ物はみんな大好きで、すぐになくなってしまいます。だから、みんな最

初に二個取っています。取り損ねるわけにはいきません。こんな祖母のように、私も料理がたくさन्दできるようになりたいと思います。

祖母の家に行った時には、昔の遊びをいろいろと教えてくれます。あやとりでは、一人あやとりも二人あやとりも上手です。あやとりをしながら話をする時間も、気持ちがあゆんだりできるいい時間です。お手玉も上手です。みかんでひよひよいとお手玉をやってみせてくれた時はおどろきました。楽しい時間でした。私ができないことをすいすいとやってしまう祖母から、目がなせません。

いつもそばにいて私たちを見守ってくれている祖父と祖母です。私の目標の祖父と祖母です。いつまでも元気でいてほしいと願っています。そして、私にもっともつといるんなことを教えてください。

## 佳作

## やさしいひいおばあちゃん

城辺小学校四年 吉見仁 汰

ぼくには、九十三才になるひいおばあちゃんがいます。今は、足や心ぞうを悪くして、老人ホームに入っています。老人ホームに入ってから、学校から帰ってくるといつも、

「じんちゃん、お帰り。」

と言ってくれていたひいおばあちゃんの声が聞けなくなったので、少しさみしくなりました。

ひいおばあちゃんの部屋には、家族でとった写真がたくさんかざってあります。その中で、ぼくが覚えてるのは、ひいおばあちゃんのたん生日にプレゼントわたしたお花といっしょに、お姉ちゃんとぼくとの三人でとった写真です。ひいおばあちゃん、

「ありがとう、とってもうれしいよ。」

と言って、泣いてよろこんでいました。だから、ぼくもとてもうれしい気持ちになりました。

ひいおばあちゃんが家にいて、元気だったころ

は、畑でトマトやキュウリ、白菜などの野菜を作っていました。ぼくは、小さいころからとれたてのトマトを食べていたので、今でもトマトが大好きです。そのころは、たっ球やサッカーをして遊んでくれました。ぼくも楽しかったけど、ひいおばあちゃんもいつも楽しそうでした。ぼくが覚えてるのは、いつも元気でやさしいひいおばあちゃんです。赤ちゃんのときは、たくさんおんぶやだっこもしてくれていたそうです。

ひいおばあちゃんは、ときどき老人ホームから家に帰って来ることがあります。帰ってきたときは、かならず会いに行きます。会いに行くと、ひいおばあちゃんはぼくの顔を見て、

「じんちゃん、大きくなったね。」

と言いながら、手をさすってくれたり、にぎってくれたりします。ひいおばあちゃんのうれしそうな顔を見て、ぼくも会えてよかったなと思います。

でも、最近は、家に帰ってくるのが少なくなりました。いろいろなことをわすれてきて、ぼくの父さんのこともわすれているときがあります。ひいおばあちゃんがいろいろなことをわすれてしまっても、ぼくは、やさしいひいおばあちゃんのことをわすれません。

「また、会いに行ったらうれしいと思うよ。」  
と、お父さんが言っていました。ぼくも、まだたくさんひいおばあちゃんに会いたいです。そして、  
「じんただよ。」  
と言って、ひいおばあちゃんの手をさすったり、にぎったりしてあげたいです。



入居者様の趣味の作品



佳作

## ぼくのばあちゃんとじいじ

城辺小学校三年 高田歩夢

ぼくのばあちゃんは、ぼくたち家族といっしょ

に住んでいて、じいじは、お母さんのお姉さんの家族と大きかに住んでいます。二人は、同じ年で

八十四才です。二人は、せんそうを体けんしていて、五さいのときにせんそうが終わったそうです。

ぼくは、学校の国語の時間に「ちいちゃんのかげおくり」という物語を勉強しました。ちいちゃん

の家族四人は、せんそうのため天国に行っています。せんそうは、とてもこわくて、ぜつ対に

したらいけないと思いました。また、ばあちゃん

とじいじが、はげしいせんそうの中で生きてくれたので、今ここにぼくも生きているのだと思います。

だから、二人にせんそうの話をくわしく聞いてみたい

です。ばあちゃんは、いつもテレビを見ています。とくに

ほ育所のことにはいっしょにつれて行ってもらって

ていました。ばあちゃんは、ぼくにとってもやさしいです。運動会や学習発表会があると、

「よくがんばったなあ。」

と言ってほめながらお小づかいをくれます。

また、ぼくがねつを出したり、けがをしたりすると、

「大じょうぶかねえ。ばあちゃんが代わってあげられたらいいのにねえ。」

と、ぼくのことを心配してくれます。ばあちゃん、いつもぼくのことを大切に思ってくれて、ありがとう。

大きかのじいじとは一年に一回くらいしか会うことができません。だから、お母さんのスマホでテレビ電話をよくします。そのとき、じいじは、

「おーい、元気かあ。」

と、うれしそうに手をふってください。じいじもとてもやさしくて、大きかに行ったときには、ぼくの話がたくさん聞いたり、いっしょに遊んだりしてくれます。この前は、メンコやおはじきなど、じいじが子どものころにしていた遊びを教えてくださいました。思っていたい上におもしろかったです。また、じいじは、ドジャースの大谷しょう平

せん手が大すきで、テレビやユーチューブでし合

をよく見ているそうです。だけど、じいじは、血

あつが高くて、心ぞうの病気があるので、し合を

見てこうふんしたり、ドジャースが負けてショッ

クだったりして、体の調子が悪くならないか心配

です。じいじは、八年前までかご島りようしを

していたので大じょうぶだとは思いますが、やっ

ぱり少し心配です。じいじ、む理をししないで、体

を大切にしてください。

ぼくは、ばあちゃんとじいじが大すきです。ずつ

といっしょにいたいんです。楽しい話をたくさんし

たいです。だから、ばあちゃん、じいじ、ずっと

元気で百才まで長生きしてください。



入居者様の趣味の作品

## 絵画の審査を終えて

審査員一同

今年度も、郡内六校の小学校から、おじいちゃん、おばあちゃんと笑顔で交流している心温まる作品が多数寄せられました。

おじいちゃん、おばあちゃんと家庭でくつろぐ様子や、畑仕事や郷土料理の調理を手伝う姿、学校行事での交流や家族旅行、伝統行事である秋祭りの様子等、にぎやかな会話や、尊敬の念が伝わってくる作品ばかりで、終始笑顔で審査することができました。

特賞に輝いた橋本樹来さんの「ばあちゃんとやさいのしゅうかく」は、トマトやナスなどの色彩やかな夏野菜を、おばあちゃんと笑顔で収穫している楽しい作品です。大きく口を開けて真っ赤なトマトを手にする樹来さんの表情からは、立派な野菜を育てるおばあちゃんへの尊敬と感謝の気持ちが伝わってきました。おばあちゃんと収穫した夏野菜を食べて、毎日元気に過ごせたことと思います。

学校数、児童数は減少していますが、今後もこの作品展が、お年寄りとの絆を深めるものとして、また、審査員がそうであったように、鑑賞する人々の心を温め、癒やす場として継続されることを願っています。

## 作文審査を終えて

審査員一同

今年度は、郡内六校から十八点の作文応募がありました。その中から、十点の入賞作品を選出しました。どの作品も、おじいちゃんおばあちゃんへの尊敬や感謝の思いが書かれていました。

特賞に輝いた野田彩月さんの作品では、地域のおばあちゃんたちとのつながりや交流を通して学んだことが表現されていました。そこから、自分も地域を明るくしたいという前向きな思いが伝わってきました。

審査をしていて、おじいちゃんおばあちゃんがいることをありがたく、誇らしく思う子どもたちの気持ちが伝わってきました。様々な交流を通して、憧れや感謝の気持ちを抱いたり、いつまでも一緒にいきたいと願ったりという温かい思いを感じました。

今後も、伝統あるこの作品展を通して、子どもたちの心が育っていくことを願っています。

## ご協力のお礼

冬のひだまりがことのほか暖かく感じる今日今頃です。第四十七回地域交流文化祭、こども作品展の開催に当たりましては、郡内小学校児童の皆さんより絵画、作文合わせて六十三点のご応募いただき誠にありがとうございました。

今年も新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため表彰式、発表会を開催することはできませんでしたが、愛南町教育委員会や愛媛CATV愛南局のご協力をいただき、絵画は十二月二日から十三日まで愛南町御荘文化センターで展示し、入選作品の発表につつましてもケーブルテレビでの放送を予定しております。

自在園一〇名の入居者の皆様も、この作品展を毎年心待ちにされております。それぞれの作品には、高齢者に対するやさしい思いやりが生き生きと表現されているものばかりで心うたれ、更に生きる喜びを強くされたと思います。

これからも職員一同力を合わせ、地域の皆様に親しまれ、愛される施設づくりに努力致す所存でございますので、変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

令和六年十一月二十三日発行

愛媛県南宇和郡愛南町満倉二三〇一番地一

社会福祉法人御荘福祉施設協会

特別養護老人ホーム

ユニット型特別養護老人ホーム

自在園

自在園

機関誌「自在」編集部